

令和3年度第1回大阪府市地方独立行政法人  
大阪産業技術研究所評価委員会  
議事要旨

- 1 日 時 令和3年8月4日（水）午後2時00分～午後5時45分
- 2 場 所 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 森之宮センター 3階 大講堂
- 3 出席委員 湯元委員（委員長）、生駒委員、小林委員、田畑委員、平山委員
- 4 議事内容

（1）委員長の選任について

- ・委員から湯元委員を推薦する意見が出され、全会一致で委員長に決定された。

（2）令和2事業年度の業務実績に関する自己評価及び評価結果（案）について

- ・資料1から4に基づき、令和2事業年度の業務実績に関する法人の自己評価及び知事の評価結果（案）について法人及び大阪府から説明が行われた後、小項目評価、大項目評価及び全体評価について審議が行われた。
- ・令和2事業年度の業務実績に関する評価（案）や、次年度以降の法人運営で参考とされたい主な意見は以下のとおり。

<主な意見>

【小項目1～6】

- ・コロナ禍における業務への影響を適切に判断できるよう、コロナにより活動できなかった日数などの情報は今後できる限り示してもらいたい。

【小項目9】

- ・実習を伴う研修はオンラインで代替できないため、コロナが要因で実施件数が減少したのは仕方がない。
- ・コロナによる影響を考慮し、「Ⅱ」ではなく「Ⅲ」と評価するのが妥当である。

【小項目10】

- ・両センターのワンストップ化の取組や顧客情報データベースの共有化など、統合後の法人の基盤整備を着実に進めていることをもっと評価するべき。
- ・全体として計画どおり実施しており、「Ⅱ」ではなく「Ⅲ」と評価するのが妥当である。

【小項目12～15】

- ・生産性向上などの経営指標を中期計画に記載してはどうか。
- ・事務分野の業務の見える化の中期計画への記載を検討してもらいたい。

【小項目13】

- ・設備機器の状況について、使用頻度だけでなく遊休状態にあるものやその要因などを記載するとより評価しやすくなる。

【小項目14】

- ・職員の満足度を調査するなどの取組を行ってはどうか。

- ・職員の採用に当たり優秀な人材を確保するため、入所してからでも博士号が取れることをアピールすべき。

【小項目16】

- ・業務改善や効率化で削減された経費の見える化に取り組んでもらいたい。

【小項目20】

- ・研究不正などを防止するためには、若手職員だけではなくベテラン職員の教育が重要となるので、取り組んでもらいたい。

(3) 第1期中期目標期間の（見込）業務実績に関する自己評価及び評価結果（案）について

- ・資料5に基づき、第1期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する法人の実績、自己評価及び知事の評価結果（案）について法人及び大阪府から説明が行われた後、大項目評価及び全体評価について審議が行われた。
- ・第1期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価（案）で参考とされたい主な意見は以下のとおり。

<主な意見>

- ・コロナ禍でも業務を止めることなく十分に活動できていることについて、評価において言及すべき。

(4) 第1期中期目標の期間の終了時の検討について

- ・第1期中期目標の期間の終了時の検討について大阪府から説明が行われた後、審議が行われた。
- ・中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績（案）やコロナ禍を含めた法人の活動実績を踏まえ、法人の業務を継続することに問題はないことが確認された。

(5) その他

特になし

以上